

計画推進評価部会における意見と県の対応

NO	頁	プロジェクト名	委員名	意見	対応
1	40	9 障害者の地域生活を支えるしくみづくり	高橋委員 中村委員	学校を卒業する年齢を過ぎても就職できない障害者の社会参加や、バリアフリー化の一層の推進のために、障害者の暮らしやすい環境整備という視点が必要ではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価（案）に「障害者の社会参加の促進や、くらしやすい環境づくりを一層進めていく必要があります。」と追記しました。
2	48	11 多文化共生の地域社会づくり	曾委員 中村委員	多文化共生については、今までの交流という視点だけでなく、公立学校に通う日本語を母語としない子どもへの支援や、外国人学校などとの連携や活用といった視点を地域社会として考えておく必要があるのではないか。	多文化共生については、二次評価（案）の中で、今後は生活や教育など生活に根付いた支援を考えるべきという趣旨の付記意見をいただいています。
3	64	15 明日のかながわを担う人づくり	高橋委員 中村委員	障害のない子どもが障害のある子どもとともに学ぶ環境がなく、結果として障害者に対する理解が進まない現状があるので、統合教育を進めるしくみづくりが必要ではないか。	ご意見を踏まえ、二次評価（案）に「支援教育を必要とする児童・生徒が増加している中で、障害の有無にかかわらず、ともに学ぶ環境づくりをさらに推進していく必要があります。」と追記しました。
4	68	16 地域資源を活用したにぎわい拠点づくり	三井委員 内田委員 中村委員	2011年の実績値は前年までに比べて大きく減少している。東日本大震災の発生や経済の悪化といった要因が影響しているものと推測されるが、そのような社会状況の変化に付言しておく必要はないか。また、このプロジェクトはスタートしたばかりで、現在鋭意取り組んでいる状況と認識している。すぐに結果が出るものではないため、今後の取組みに期待したい。	ご意見を踏まえ、評価報告書の総合分析欄の記載を修正しました。また、二次評価（案）に「2014年の数値目標を達成できるよう、地域資源を活用したにぎわい拠点づくりの取組みが一層進められるよう期待します。」と追記しました。
5	88	21 神奈川の自然環境の保全と活用	齋藤(文)委員 三井委員	自然環境の保全は、耕作放棄地対策などの農地保全の取組みと切り分けられない側面があるので、農林水産業の活用についても記載した方がよいのではないか。	農林水産業については、プロジェクト26において取り組んでおり、その中に緑の提供や県土・環境の保全への寄与といった視点も含まれています。 自然環境保全の取組みの中で農地をどう取り扱うかについては、新たな政策課題の整理を行う中で議論を深めていきます。
6		その他	大久保委員	数値目標等のグラフのY軸はゼロを原点として作成するべきではないか。	数値の経年変化や目標の達成状況を分かりやすく表すため、それぞれのグラフに応じた数値を原点として作成しています。